

令和2年度歴史館協議会 審議内容

■久留島浩委員

1 新中長期ビジョン等について

①「新たな歴史館の創造をめざして」(新中長期目標)について

2009年からの10年間の歴史館の活動の成果と課題に裏付けられた目標で、この20年間の社会の変化にも対応した前向きな目標だと考えます。

参考資料の「策定のポイント」は特にいずれも重要な点で、実現されることを強く期待しています。そのうえで少し付け加えさせていただきます。

1)基本目標のⅡ-1では、この数日間の豪雨や昨年の中野県内の被災を考えると、被災した地域歴史文化資料(景観も自然資料も含まれる)の救済・保全と活用(地域の人々がそこから学ぶことができるようにする)という点は、やはり文言として明確にいれるべきだと考えます。環境破壊が進む中で地球温暖化現象に基づく災害は、これからますます増えることが想定されるうえ、今後予想される大地震や警戒を必要とする火山活動のことを考えると、この点に触れておくべきではないかと思われるからです。

長野県は、県としての文化財保存活用大綱を策定されているものと思いますが(ネット上では検索できませんでした)、それを踏まえて市町村の文化財保存活用地域計画が策定される中で、歴史館が果たす役割について、もう少し踏み込んでよいのではないかと思います。これは特に、基本目標の(1)の「県民の歴史遺産を未来に継承する」ことにつながり、それこそ(5)の「県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割」とも深く関わるものだと思うからです。

[ご回答]

「被災した地域歴史文化資料(景観も自然資料も含まれる)の救済・保全と活用」という文言を入れるべき、という貴重なご提言をいただき、ありがとうございました。『新たな歴史館の創造をめざして』のⅡ-1-(2)4行目の「○史資料の保存(調査、取り扱い、保存処理)に関する講習会、研修会の開催」には、県内全域の被災した史資料の保存に関する市町村支援・助言の意図を含んでおり、ここ数年は当館主催の「文献史料保存活用講習会」で「災害と資料保全」として災害への備えやレスキュー・修復について扱っております。より一層支援への取り組みを進めるべく、今後内容の検討を進めて参りたいと存じます。

■久留島浩委員

2)基本目標のⅡ-1の(1)「史資料の収集、整理」では、「公文書館としての機能を有し」ているがゆえに、「歴史的文書」にとどまらず、「公文書」収集と保存を行うことを期待しています。その意味でも、「取り組みを強化する」にとどまらず、「機能を強化する」、そのための予算と人を確保することが求められているのではないかと思います。

[ご回答]

今年度始まった県の公文書審議会において、今後の県公文書管理のあり方が検討されています。その内容が、当館の公文書機能の方向性に影響を与えると考えます。その内容によっては機能強化等の文言を加えることも視野に入れたいと思います。

■久留島浩委員

3)Ⅱ-2の前文では、「未来を切り開く示唆を発見する」ための歴史知識を涵養することが必要だと述

べられていると思うのですが(これ自体にはまったく意義はありません)、現在の視点から過去を振り返り、それを踏まえて未来を考えるのであれば、「現在の課題」そのものについて考えるという点が必要だと思っています。まずは、「現在(いま)がわかる」博物館である必要があるのではないかと個人的には思っています。Ⅱ-3の前文についても「未来を展望する」ためには、「現在」についての「認識」が不可欠だと思います。もっとも、この点は言わずもがなで、Ⅱ-4-(3)で、「地域課題を捉えた調査研究を推進する」とされていますが、もう少し強調してもよいのではないのでしょうか。なお、繰り返しで恐縮ですが、「毎年のように起こる自然災害」も含めた「地域課題・地域文化の調査・研究」が必要だと思っています。この点、2020年の活動計画には大賛成です。

[ご回答]

「地域課題を捉えた調査研究推進」強調の必要性のご指摘、私共も力点を置きたい部分であり、しっかりと受け止めさせていただき、活動に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

■久留島浩委員

4)Ⅱ-2-(1)「新たな長野県史の編纂に関する史資料の調査・収集等」では、「長野県現代史」をはじめとする県史編纂のための史資料収集をすることがうたわれており、これについても大賛成です。長野県らしい事業だと思います。ここで、収集される史資料には、災害関連資料(「災害文化」という捉え方はまだ浸透していませんが、災害が起こったときに人々が何を行い、どのように記録し、その記憶や経験を将来にどのように残そうとしたのか、を示すような資料群)を含めていただけるものとは思っていますが、被災した資料や被災し避難したときに作成された資料、歴史的災害に関する史資料を用いた展示も計画していただけるとよいと思いました。

[ご回答]

今後に生かしていきます。

■久留島浩委員

5)Ⅱ-2-(4)の「歴史情報」については、「被災資料も含めた県内の情報の中核拠点」であってほしいと思います。

[ご回答]

そのように努力していきます。

■久留島浩委員

6)Ⅱ-3-(1)などでは、常設展示であっても、「いつ来ても新しい発見(出会い)がある可変的な展示、付け加える事のできる展示」が理想かと思いました。(3)では、思い切って「企画展示(ミニ企画展示でも)を県民に公募する」(実際は大学で請け負ってもよいかもしれません)というのはいかがでしょうか。「信州大学との連携」は事業計画の中でも項目になっています。

[ご回答]

ご提案ありがとうございます。新たな見方、県民に寄り添うという視点でも検討してみたいと思っております。

■久留島浩委員

①「令和元年度(2019年度)の評価表」について

全体としては、これで十分だと思います。むしろ、これだけの事業を推進してこられたことに心から敬意を表します。そのうえで、「史資料の保存等に関する市町村への協力・支援」や「災害・災害の対応」については、もう少し詳しく書き込み、県あるいは県民に対して、もっとアピールしていただきたいと思っております。県歴史館でなければできないことをきちんとやっているのだ、ということを強調して

おくことが、今後の予算獲得のためには必要だと思うからです。わたしは、歴史館の果たしてきた機能をもっと高く評価したいし、今後の役割に大きな期待を寄せているからです。

「近世史サマーセミナー」が継続していることに感動を覚えました(私も参加し、刺激を受けたことがあるので)。しかも、そのテーマはきわめてタイムリーで重要なもの(近世の災害とその復興)なので、この点は、ぜひ「中長期計画」にも入れていただきたいと思います。

[ご回答]

前半アンダーライン部分のご指摘につきましては、評価表の、「防災・災害の対応」の「令和元年の達成値」に、既に書かれている「台風 19 号により被災した史料のレスキューに参加」に、「長野市立博物館へ保存処理方法の支援を行い、職員が交代で出向いて水損資料の応急処置を行った。また、県博協および県史料協の加盟団体へ応急処置の支援を要請した。」を加えたいと思います。

後半アンダーライン部分のご指摘に関しましては、『新たな歴史館の創造をめざして』のⅡ-1-(2)4 行目の「○史資料の保存(調査、取り扱い、保存処理)に関する講習会、研修会の開催」の部分に対応します。現在行っている支援をさらに充実させていきたいと思います。

■久留島浩委員

「令和2年度(2020 年度)県立歴史館の活動計画(目標)」について

全体としては異論ありません。この事業を推進するための予算と人員を確保できることを強く願っています。そのうえで、「もし」県の文化財保存活用大綱の策定がまだであるならば、「防災・災害の対応」について、歴史館ならではの対応を書き込んでほしいと思います。そして、「地域課題の調査・研究」については、是非実現していただければと思います。今後、必要になる事業です。

[ご回答]

アンダーライン部分のご指摘につきまして、収蔵庫棚の固定、転倒防止柵、保存容器が棚から落ちないための滑り止めなどの基本的な防災および災害への対応は、中越地震直後から既に行っております。今後、さらに確認・整備をしていきたいと思います。

■久留島浩委員

2 「令和2年度県立歴史館事業計画概要」について

きめ細かく、しかも必要不可欠な項目は網羅されていると思います。これだけでも実現することは大変ではないかと思い、予算や人員の確保につながることを期待しています。そのうえで、「誰でもできる水災資料(特に家族写真なども含めた)の救い方」など、災害を想定した対応(ワークショップ等の開催)も項目として入れていただければと思います。この点は、「活動計画(目標)」の「地域課題の調査・研究」でも活動計画をもう少し明示してもよいのではないのでしょうか。

[ご回答]

「文献史料保存活用講習会」や県史料協の研修会で、水損資料の取り扱い方法について複数回取り上げています。今後も古文書の修復研修を行う予定です。

■久留島浩委員

雑ばくな意見を述べてしまいましたが、これまでの活動や今後の中長期計画、それを踏まえた 20 年度の活動計画は、基本的には素晴らしい、と思います。ぜひ実現していただきたいと思います。

■小林正春委員

新中期目標に関し、

○基本目標等に「信州学」をキャッチフレーズの、かつ戦略的に活用したらどうか。

[ご回答]

ご指摘ありがとうございます。2頁の下から8行目の「2(2)県民の生涯学習」の中に「信州学」が入るのですが、生涯学習は、幅広い内容となるので、信州学をキャッチフレーズにするのは難しいと考えています。

■小林正春委員

○長野県〈信州〉のインフォメーションセンター機能を位置づける。施設そのもの及び機能面で知的な観光拠点の役割を担うことはどうか。

[ご回答]

4頁の5-(1)の○の2つめ「県内諸機関との連携」では、県の関連部局を通して観光面にも協力するといった、県観光戦略との連携も含んでいます。

■小林正春委員

○子ども向けの戦略及び多くの方向へのアピール方法のひとつとして、オリジナルキャラクターやマスコットなど親しみやすいグッズの検討はできないか。

[ご回答]

現在アルクマと縄文土器をキャラクターとして、顔出しパネルやバッジで活用しています。また、新たに立ち上げた子供向けホームページでは、ナビゲータとして男女の子供のキャラクターを新設し、現在名前を一般公募しています。

■小林正春委員

令和元年度事業評価について

○概ね自己評価の内容で良いと思います。今後は目標値のハードルを少し高めに設定することも要検討です。

[ご回答]

検討します。

■若林由美子委員

全体を通して、長野県内の歴史だけでなく、広く日本の歴史全体を捉え、その中の長野県として学んでいく姿勢が県民や特に子どもたちの歴史を学ぶ上で大切ではないか。

併設こども歴史館の施設が早急に待たれるし推進していただきたい。

日本や広く世界の歴史にも触れる発信をしてほしい。

IT化で子どもたちがパソコンやタブレットでリモート学習できる方法も、以後開拓してほしい。

[ご回答]

ご指摘、ありがとうございました。子供向けのホームページ「こども歴史館」を本年度更新し、展示室の360度閲覧、展示資料のパズル、展示物に関するクイズ等をさらに充実させ、リモート学習に対応できるようになりました。また、現在はコロナ対応で停止していますが、信州大学と連携して展示室内専用のタブレットを貸し出し、展示物に関する学習を深められる方法(ビーコンガイド)を開発中です。

■中村孝子委員

新しい生活様式となり、学校の児童生徒への対応が難しくなっているが、その中でも歴史学習は続くので、本物に触れる機会が確保できるように、受入校や時間など余裕を持たせて、可能な限り対応してもらえるようお願いしたい。(各校で健康チェックなどを毎日行っているのも、そこも情報共有しながら、当日、受入チェックも可能になると思われる。)

[ご回答]

児童が密にならないように 20 名ずつの制限を設け、解説場所や方法、ビデオの併用など工夫した新メニューを準備し、学校の受け入れを再開しました。

■中澤英治委員

新中長期ビジョン等について、特に出前講座、出前授業は評価されると思います。
令和2年度事業について、歴史学習の拠点が加わったことは良いと思います。

[ご回答]

ご評価いただき、ありがとうございました。

■山崎まゆみ委員

今年は新型コロナのため、様々な行事が中止、変更になる事はいたしかたないと思います。
歴史館協議会委員について、一般公募の一人を当館ボランティアから選任することを通例とすることはできないでしょうか。交代することも可能ですし、多くの意見を聴くことができるのではないかと思います。

[ご回答]

当館ボランティアの皆様は歴史や文化財への造詣が深く、献身的に当館の業務にご協力いただいております、感謝の念に耐えません。歴史館協議会の公募委員をボランティアの方に固定することについては、公募枠が限られていることから難しいと考えておりますが、今後も様々な形でボランティアの皆様からのご意見を館運営に反映させてまいりたいと考えております。